

平成30年度 ちぐさこども園 学校関係者評価委員会

21/2

日時：平成30年3月28日(木) 17:00～18:00

場所：ちぐさこども園保育室

出席者：青木忠昭(法人役員)、中島國恵(同)、大脇博(同)、山田龍之介(同)、星川嘉一郎(元市議)、高田華寿子(元民生委員)、金井竹徳(郷土史家)、石田宇平(ユネスコ協会会長)、石坂淳一(保護者代表) ※順不同、敬称略

1. 本園の教育・保育目標

「意欲」・・・面白いことや楽しいことを十分に体験を通して、「～したい」につながるエネルギーを心身ともに培う

「感性」・・・様々な体験を通して、感じる心・表現する喜びを味わい、同時に知的な感覚を磨く

「思いやり」・・・他者と共にする生活や遊びを通して、友だちと過ごす楽しさや難しさを味わいながら、他者を慮る心や態度を培う。

2. 本年度自己評価と学校関係者評価

項目		自己評価		学校関係者評価(意見)
本年度 重点	① 職員間の 保育共有・ 連携	A	全体会議やケース会議を繰り返すことによって、日頃の語り合いの観点にも、保育目標の視点があらわれ、職員間の浸透が進んだ。	<ul style="list-style-type: none"> ・園(職員間)の雰囲気が良く、物が言える関係性がある。 ・障害児を含めた心地良い子ども集団(偏見のない子どもの自然な助け合う態度)は、保育者の発達障害への理解に基づく、丁寧な関わりが大きな要因。
	② より充実した 環境の構築	B+	安全点検項目見直しやアーティストの招聘など、環境充実への取り組みは図れた。ただ、継続的な実施には課題が残る。	<ul style="list-style-type: none"> ・アーティストの招聘は、多様な環境につながり、とても良い。 ・地域とのつながりの意味で、地域の伝統芸能を取り入れると良い。 ・保護者が一日保育体験する「保育参加」は面白い。(自分の子以外の子も興味深く面白かった)
総合		B+	保育の質向上に向けて、園全体の取り組みは進んだ。今後さらに各自の個別具体的な保育への落とし込みを図っていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・卒園生が真面目、礼儀正しい、思いやりがあるなど、“品”がある印象。良い意味の“ちぐさブランド”を大切にしていってほしい。 ・謝恩会等でみられる保護者同士のつながりは、ちぐさ独特の良いところ。